

1－9			
主 題		褥瘡の早期治癒と予防への取り組み	
副 題		褥瘡予防委員会の強化と褥瘡が出来た方の身体状況別パターン化を実施して	
キーワード 1 褥瘡		キーワード 2 他職種協働	研究(実践)期間 12 ヶ月
法 人 名		社会福祉法人 白十字会	
事業所名		特別養護老人ホーム 白十字ホーム	
発表者（職種）		綿谷奈保子（介護士）	
共同研究(実践)者		中原あつ子（看護師）、鹿島朋子（栄養士）	
電 話		042-392-1375	F A X 042-392-1255
今回発表の事業所やサービスの紹介	『トトロの森』のモデルとなった東京都東村山市の八国山の麓に建つ定員 170 名の従来型の特養です。併設の白十字病院、デイサービス、老健、小規模多機能等と連携し地域に開かれた施設として包括的なサービスに努めています。利用者の方が「安心、いきいき、心豊か」に生活できるような支援を目指しています。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》 当施設では「褥瘡を作らない」を目標とし、適切なケアを行っているつもりだった。 そんな中、平成27年8月、経管栄養の方にかかなり大きな褥瘡が出来てしまい、その方は栄養状態が悪くあっという間に悪化してしまった状況に看護師、介護士、栄養士とも大きなショックを受けた。 何故急激に悪化したのか、発赤、皮むけの状態の時にしっかり対応していればここまで悪化しなかったのではないか。 日々、発赤や皮むけの報告は上がっている、その場での処置など対応はしているが褥瘡という対象ではなかった。 褥瘡について正しく理解していなかった。褥瘡予防委員会は月1回実施していたが積極的な取組への発信は行えていなかった。	《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》 <目的> 褥瘡の早期治癒と効果的な予防が行える。 <仮説> 職員の意識を変えることが褥瘡の減少、予防につながると考えた。 職員が褥瘡の定義、なぜ発症するのか、予防のためには何が必要なのかなどを正しく理解する。 そのために、褥瘡予防委員会の強化が必須。褥瘡予防委員会をしっかり機能させ褥瘡予防に関して職員に発信することにより職員の意識を変え、褥瘡の早期治癒、予防につながることを期待した。 また、予防に向けて褥瘡になった方の身体別褥瘡パターンを作成することによって予防につなげる
---	---

《3. 具体的な取り組みの内容》

・外部の褥瘡予防研修に看護師・栄養士・介護士で参加し各課内で共通の理解のもと協力しあえるよう取り組んだ。

外部研修をもとに褥瘡について正しい理解をしてもらうためパワーポイントを作り褥瘡についての職場内研修を介護士、看護師、栄養士が協力し実施した。

・褥瘡予防委員会の強化を図る

ただの報告ではなく、具体的にどう取り組んでいるのか、完治に向けて何が必要なのかを検討する場とする。

実際に

月 1 回行っている褥瘡予防委員会に加え緊急褥瘡予防委員会として週 1 回、看護師・栄養士・リハビリ・介護士・相談員が集まり褥瘡の方の経過報告、処置内容、体交の方法、効果的なクッションの使い方の確認などを行った（約 1 か月の間に 4 回実施）。

新たに褥瘡ができてしまった時にはその都度緊急褥瘡予防委員会を開き各課が集まり対策や完治に向けての話し合いを行った。

・今まで褥瘡として挙げていなかった小さな皮むけも積極的に褥瘡としてあげ治癒に向けて取り組んだ。

・入職 2 年目の職員が受講する施設内の基本力研修のフロア取り組みテーマとして褥瘡の予防を挙げて取り組んだ。

・過去 7 年で褥瘡になった方の状況分析を行いパターン化し予防に取り組んだ。

《4. 取り組みの結果》

褥瘡に対する職員の理解が高まり意識に変化がみられた。

介護士は利用者の肌の状況をこまめに看護師に報告するようになった。

週 1 回の緊急褥瘡予防委員会を開き各課で意識的にかかわることで褥瘡の利用者 4 人中 3 人が 1 か月以内に治癒した。

患部の清潔保持の観点から排泄の見直しを行うようになった。

褥瘡予備軍の方に向けてパターンに基づき効果的な予防策がとれるようになった。

《5. 考察、まとめ》

褥瘡予防委員会を強化することにより他職種が連携して関わる事が出来た、またいろいろな視点からの意見が出され効果的な取り組みができた。

小さな皮むけレベルの皮膚状態にもより積極的な取り組みを行うことで、職員の意識に変化がみられたがみられた。そして、積極的に対応する中で治癒が早まった、そのため早期対応が必要だということが大切だということ職場内で実感することができた。今後は褥瘡を作らないということに向けて、身体的褥瘡パターンを有効に活用していきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「Wellbeing の視点から褥瘡対応を考える」（2015 年 9 月 5 日開催「メディカルケアサポートセミナー in 多摩」研修会配布資料）

《8. 提案と発信》

利用者個々の身体状況等により褥瘡の発生リスクや発生部位のある程度の予測が可能です。予測ができれば適切で効果的な予防策がたてられます。

過去の褥瘡になった方の身体的褥瘡パターンを作る事によりさらに予測がしやすく適切で効果的な予防策となるのではと思います。

他職種が専門家としての視点で意見を出し合い協力すること、このことは褥瘡だけでなく全てのケアにおいて重要な事と考えます。